

出張報告

報告日 令和6年7月16日

会派名	暮らしと笑顔		
報告者氏名	池野里美		
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議		
用務	東京おもちゃ美術館の視察		
日時	R6/7/10(水) 10:30 ~ R6/7/10(水) 12:30		
場所 (会場)	東京おもちゃ美術館 (東京都新宿区四谷4丁目20)		
調査項目等	廃校の利活用について		
概要	<input type="checkbox"/> 10:30~11:00 廃校活用や運営について、パワーポイントを使用しレクチャー (講師:東京おもちゃ美術館 副館長/特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会 事務局長・副理事長 ■■■■ 様) <input type="checkbox"/> 11:00~12:00 東京おもちゃ美術館内の見学 ※別紙、資料添付。		
所感等	<p>新宿区立四谷第四小学校は子どもの減少により廃校となり、建て替えた方が安いとの事だったが、地域住民からの強い要望により、取り壊さずに校舎を活かすこととなった。地域住民より NPO 法人芸術と遊び創造協会へ依頼を受け、3 団体で廃校を活用する事を新宿区へ地域住民より提案し採用。校舎の半分は地域の公民館として使用、残り半分を、おもちゃ美術館と CCAA という市民の芸術活動を推進する団体とで使用している。耐震補強工事などは、区が負担することで、NPO 法人として美術館部分の改装費のみを負担。NPO 法人としては特殊で、補助金や助成金をもらわず、年間の賃貸料を区へ納め、入場料収入で運営している。コロナ禍では一時収入減となり大変だったが、その後は入場者が戻り、黒字化できているのは、おもちゃ美術館そのものの建物や空間の魅力はもちろんのこと、美術館内の運営をサポートしておもちゃ学芸員というボランティアスタッフの力が大きいと感じた。おもちゃ学芸員は、10代から80代まで、年齢も経歴も様々な300名以上の方が登録しており、来館した赤ちゃんからお年寄りなど多世代に対して、おもちゃの使い方や面白さを伝えたり、遊び相手</p>		

になったり、相談相手になったりしている。学芸員になるためには、実費で講座を受講し、NPO 法人へ年会費も支払っている。スキルアップ講座もあったり、学芸員同士のサークル活動もあったり、生涯学習の場にもなっている。

館内は、教室ごとにテーマが分かれ、ワクワクするような展示の工夫があり、また、美術館といっても、実際に手に取って遊べるおもちゃもあるので、多くの親子や、外国人観光客なども、観たり実際に遊んだりして楽しむ姿が見られた。私が見学した際も、どの教室にも学芸員の方が在中していて、気軽に話しかけやすい雰囲気があった。赤ちゃんスペースでは、遊んでいる子どもたちを見守りながら、母親と会話をしたり、ベテランの学芸員が、若手の学芸員へ指導したりする場面も見られた。

レクチャーをしてくださった副館長の■■■さんもおっしゃっていたが、おもちゃ学芸員の方が素晴らしく、おもちゃの力が2割、人の力が8割と感じているとの事。

新宿区以外でも、木曾、桧原村と廃校を活用したおもちゃ美術館を2館オープンしているが、どこの地域でも運営方法まで指導し、おもちゃ学芸員というボランティア制度を取り入れて人材育成も力を入れているというのが素晴らしいと思った。

おもちゃ美術館は、現在、国内に12館あり、直営、公設民営、民設民営とあるが、どの美術館も地域の木材を活かしたり、地域の文化を生かした設計になっており、また、地域貢献として、地元の小学校や保育園の入館を1回は無料にしたりなど、地域に愛される多世代交流の場となっている。海外からの視察もあるとの事だが、これから柏崎市でも廃校が増えてくるので、地域に愛されてきた学校が、地域住民が納得した形で利活用できている好事例として、とても参考になった。また、柏崎市にいらっしゃる元気な高齢者が、おもちゃ学芸員として活躍する場にもなると思うし、地域住民だけでなく、市外からも観光に来る人も多いたとの事で、新たな交流の場にもなりうるおもちゃ美術館に多くの可能性を感じた視察となった。